

シネマズライフ

たかぎ りおん
貴樹 諒音

2016年1月15日発行 第96号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

【最近のこれはお見事！】

『いいにおいをする映画』 なかなか斬新な斬新な映画のようだ。しかし、においはあんまし関係なさそうだが…。

【最近のこれはまずいぞ！】『シャークトバス VS 狼鯨』の題名を思いついた時にはものすごくうれしかったんじゃないかなろうか、つけた人は。

映画の風景 日本の風景

※ 京都国立博物館 ※

京都国立博物館→



『黄金のアデーレ』という映画があった。こんな映画だ。98年、アメリカ・ロサンゼルス。小さなブティックを営むマリリア・アルトマンの音楽を共にした姉が死んだ。そこでマリリアは姉がオーストリアの画家・クリムトが描いた『黄金のアデーレ(黄金の女)』の返還をオーストリア政府に訴えるつもりだったが事を知る、オーストリア政府の法律が変わったからだ。戦時中のモデルは二人の叔母で、戦時中ナチスに盗み取られたのだ。そこで、マリリアは友人の息子・ランディに依頼。独立したが失敗、再就職するも落ち込んでいたランディだったが相談に乗る事に。

『オ、マリリアは話を進めていくうちに、オーストリアに帰らなければならぬという。故国・オーストリアには美しい思い出がなく、激しく帰国を拒否。しかし、故国での叔母・家族達を想い帰国する。ところが、オーストリアが説明するには、叔母の遺書に美術館に寄付すると記述あるという。しかし、その遺書の執行には不備があり、マリリアとランディはオーストリアのジャーナリストのチェルニンの協力で裁判に訴える決心をするが、それはマリリアにとっても過去の悲劇を繰り返す事だった。ナチスのヨーロッパ各国に与えた爪痕は深い。

京都国立博物館は、数々日本の芸術作品が集められている。まさか、日本では映画のような事は起こらない。と思いが、歴史とは不思議なもの。日本に住む者としてそうならぬように祈るばかりだ。

『黄金のアデーレ』2015年 アメリカ イギリス 監督：サイモン・カーティス 原案：E・ランドル・シェーンベルク マリリア・アルトマン
出演：ヘレン・ミレン ライアン・レイノルズ ダニエル・ブリュール ケイティ・ホームズ タチアナ・マズラニー

濃厚な人間ドラマでありながらハラハラドキドキのシーンもあり、映画としてもとても楽しめる映画になっている。こちらへんはさすがにうまい。

コラム

毎年の事だけど…



明けましておめでとう
ございます

いつも読んでいただき
ありがとうございます。

本年も昨年同様よろし
くお願い申し上げます。

毎年のように『波乱の年』だの『変化の年』だのと私は書いていたような気がする。しかし、今年も年頭から『不倫』だの『解散』だの『食品横流し』ともう一年の半分に起こる重大事件が発生した感じだ。

今年は何んと『波乱の年』なのだろうか？今更ながら平穏な年を祈る私なのでした。



on air!

CS・BS放送のオススメ映画を紹介しします!

CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もあります。m(_ _)m

『沈まぬ太陽』

衛星劇場

2009年 日本

監督:若松節朗

製作総指揮:角川歴彦 小林俊一 土川勉

原作:山崎豊子

出演:渡辺謙 三浦友和 松雪泰子 鈴木京香 石坂浩二 香川照之 木村多江 清水美沙 鶴田真由 柏原崇 芦田恵梨香 大杉漣 西村雅彦 柴俊夫 風間トオル 山田辰夫 蟹江一平 桂南光 秋野暢子 松下奈緒 品川徹 矢島健一 田中健 渡辺いっけい 小日向文世 神山繁 草笛光子 宇津井健 小林聡待 加藤剛

1月18日(月) 21:30 1月31日(日) 19:00
2月13日(土) 15:30

国民航空社員の恩地は、労働組合委員長で活躍していたが会社からにらまれて、次々と海外赴任を命ぜられて10年。仲間だったはずの行天は早々に組合から離れエリートコースを歩いており、長い左遷生活は恩地にとってはつらいものだった。

そして10年。やっと日本に帰国するが、組合活動を辞めない恩地にの立場は変わらなかった。そんな矢先、【ジャンボ機墜落事故】が起こる…。

『白い巨塔』『華麗なる一族』『不毛地帯』など、今も温存する多くの日本の恥部を描く山崎豊子の傑作小説の映画化。しかし、今ではこんな力強い小説を書く人は少ないです。

『ホーンテッドマンション』

スターチャンネル

2003年 アメリカ

監督:ロブ・ミンコフ

製作:アンドリュウ・ガンドン・ハーン

出演:エディ・マーフィ ジェニファー・ティリー テレンス・スタンプ ナサニエル・バーカー マーシャ・マソン ウォレス・ショーン ディナ・ウォータース

1月21日(木) 18:20(吹) [チャンネル3]
1月26日(火) 11:10(吹) [チャンネル3]
1月31日(日) 13:15(吹) [チャンネル3]

不動産ディーラーを営むジムは、忙しさにかまけて家族は二の次。おかげで子供達は不満タラタラだった。ようやく休みがとれ、家族旅行にでかける事に。ところがその当日、新しい取引の話の電話が入り旅行の途中でその物件を見に行く事にするが、子供達は不満だ。

しかし、その屋敷は超豪邸。仕事のチャンスにジムは大喜び。ところが屋敷に入ったとたん豪雨にみまわれ、屋敷の主・グレイシーにもすすめられ、その晩屋敷に泊まる事に。

どことなく、不思議な屋敷だが、実はある秘密が隠されていた…。

ディズニーランドの名物アトラクションの映画化。おもちゃ箱のような展開が楽しみ。



☆読んで頂いてありがとうございます。よろしかったらコメント下さい。感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願ひします!! 貴樹諒音

『情婦』

1957年 アメリカ
監督 脚本:ヒラリー・ワイルダー 脚本:ハリ・カーニッツ
原作:アガサ・クリスティ

出演:タイロン・パワー マレーネ・ディートリヒ
チャールズ・ロートン エルザ・ランヂェスター
トリン・ザッチャー

イギリス、ロンドンでは名の知れた弁護士ウィルフリッド卿は、一時は生死をさまよったが、無事生還。口うるさい看護婦・ミス・プリムソルの付き添いでようやく退院した。しかし、大好きな酒、たばこも禁止され、ウィルフリッド卿は機嫌が悪い。



そんな頃、彼にレナード・ウォールドという青年の依頼にやってくる。ウォールドが親しい資産家の未亡人が殺された、彼に嫌疑がかかっているというのだ。しかし、彼はもちろん殺していないし、犯行時間は妻・クリスチーネが証言してくれるというのだ。この依頼に興味を持った言先、未亡人の遺言書で、財産をウォールドに残すという事が発覚。ウォールドは逮捕されてしま

て楽しむ時代のハリウッド監督の名作『情婦』。ウィルフリッド卿と看護婦とのやり取りの妙など楽しんでください。

映画として、映画として楽しむ時代のハリウッド監督の名作『情婦』。ウィルフリッド卿と看護婦とのやり取りの妙など楽しんでください。

う。ウォールドを信じたウィルフリッド卿は、弁護を引き受ける事を決める。そこへ、ウォールドの妻・クリスチーネが現れ、彼の無罪を証言する。が、彼女の態度に疑問を持ち弁護にはクリスチーネの証言なしで行う事に決める。さて、公判の日。彼の無罪は微妙な事態となるが、なんとその法廷にクリスチーネが(検事側証人)として出廷し意外な証言をする…。

☆次回発行は2月5日。発行予定第一・三金曜日です。

【編集後記】

☆関西の三が日は、晴れていたものの以降は「波乱の年」になりそう。そこで一句



梅も来ないが今年から落ち着かず今年は大丈夫かと大いに心配

今年もよろしくお願ひしますかしこ。

シネマズライフ96号

※ 発行人: 貴樹諒音 ※

発行日: 2016年1月15日

cinemaz-life@movie.nifty.jp

※ 告知ブログ ※

http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

